

57. 須藤研太郎, 山口 武人, 中村 和貴, 原太郎, 広中 秀一, 中村 奈海, 傳田 忠道, 北川 善康, 三梨 桂子, 多田 素久, 三方 林太郎, 太和田 勝之, 石原 武, 趙 明浩, 貝沼 修, 山本 宏. 切除不能局所進行膵癌に対する集学的治療の検討. 第 53 回日本消化器病学会大会 (JDDW2011). 2011 年 10 月 21 日, 福岡.
58. 須藤研太郎, 山口武人, 中村和貴, 原太郎, 傳田忠道, 廣中秀一, 相馬寧, 幡野和男, 石原武, 多田素久, 三方林太郎, 太和田勝之, 趙明浩, 貝沼修, 山本宏. 局所進行膵癌に対する集学的治療の検討. 第 49 回日本癌治療学会, 2011 年 10 月 27 日, 名古屋.
59. 須藤研太郎, 山口武人, 中村和貴, 原太郎, 傳田忠道, 廣中秀一, 北川善康, 中村奈海, 幡野和男, 多田素久, 三方林太郎, 太和田勝之, 石原武. 進行膵癌に対する化学放射線療法におけるメタリックステントの安全性に関する検討. 第 49 回日本癌治療学会, 2011 年 10 月 27 日, 名古屋.
60. 光永修一, 池田公史, 仲地耕平, 鈴木雅美, 加藤博之, 寺尾公男. 膵がんにおける抗 IL-6 療法の意義. 第 84 回日本内分泌学会学術集会. 2011/4/23 神戸市.
61. S. Mitsunaga, M. Ikeda, K. Nakachi, I. Ohno, S. Shimizu, H. Takahashi, H. Okuyama, M. Inagaki, J. Furuse, A. Ochiai. Use of elevated IL-1 to predict prognosis in patients with advanced pancreatic cancer with high IL-6 and wasting condition. 2011 ASCO Annual Meeting, June 5-8, 2011, Chicago, IL, U.S.A.
62. 高橋進一郎, 木下平, 小西大, 木下敬弘, 後藤田直人, 加藤祐一郎, 池田公史, 仲地耕平. 局所進行膵がん化学療法後の切除例の検討. 第 23 回日本肝胆膵外科学会・学術集会. 2011/06/10 東京
63. 高橋進一郎, 木下平, 小西大, 後藤田直人, 加藤祐一郎, 木下敬弘, 池田公史. 切除可能膵癌と局所進行膵癌の資料成績から検討する浸潤性膵管癌の治療戦略. 第 66 回日本消化器外科学会総会. 2011/07/14 名古屋市
64. Shuichi Mitsunaga, Masafumi Ikeda, Izumi Ohno, Satoshi Shimizu, Hideki Ueno, Chigusa Morizane, Shunsuke Kondo, Takuji Okusaka. The degree of circulating CRP level predicts the results of GEM-monotherapy in patients with advanced pancreatic cancer. (ワークショップ) 第 9 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011/07/21-07/23 横浜
65. 光永修一, 池田公史, 仲地耕平, 大野泉, 清水怜, 高橋秀明, 奥山浩之, 稲垣正俊, 古瀬純司, 落合淳志. 進行膵がんにおいて、病状悪化を認める IL-6 高値群のうち IL-1 高値群は予後不良である (口演) 第 42 回日本膵臓学会大会. 2011/07/29-07/30 青森
66. 酒井健司, 光永修一, 仲地耕平, 清水怜, 上野秀樹, 森実千種, 近藤俊輔, 奥坂拓志, 池田公史. 肝転移を有する膵腺房細胞癌に対しゲムシタビン塩酸塩と S-1 併用療法を行った 2 例 (口演) 第 42 回日本膵臓学会大会. 2011/07/29-07/30 青森
67. 高橋進一郎, 小西大, 木下敬弘, 後藤田直人, 加藤祐一郎, 池田公史, 仲地耕平, 光永修一, 大野泉, 木下平. Borderline resectable 膵癌を対象とした臨床試験の必要性 (口演) 第 42 回日本膵臓学会大会. 2011/07/29-07/30 青森
68. M. Ikeda, T. Okusaka, A. Fukutomi, S. Otani, K. Shibayama, T. Takubo, J. Gansert. A Phase 1b, Open-Label Study to Evaluate the Safety of Gantiumab (AMG 479) in Combination With Gemcitabine as First-line Therapy in Patients With Metastatic Pancreatic Cancer. Joint ECCO 16-36TH ESMO. 23-27 SEPTEMBER 2011. Stockholm, Sweden.
69. 桑原明子, 仲地耕平, 奥山浩之, 高橋秀明, 大野泉, 清水怜, 光永修一, 池田公史. 進行膵癌に対する 2 次化学療法としてのゲムシタビンの有効性・安全性 第 49 回日本癌治療学会学術集会 2011/10/27-10/29 名古屋市
70. 大川伸一, 井岡達也, 池田公史, 上野秀樹, 朴 成和, 水元一博, 船越頭博, 佐藤温, 奥坂拓志. 進行膵癌に対する GEM / TS-1+TS-1 の第 III 相試験 (GEST) 第 49 回日本癌治療学会学術

- 集会 2011/10/27-10/29 名古屋市
71. S Mitsunaga, M Ikeda, A Ochiai. Neural invasion induces cachexia and pain in pancreatic cancer. 6th Cachexia Conference. December 8-10, 2011 Milan.
 72. A Kuwahara, S Mitsunaga, I Ohno, S Shimizu, H Takahashi, H Okuyama, T Okusaka, H Ueno, C Morizane, S Kondo, M Ikeda. Symptom changes that predict disease control by systemic chemotherapy in patients with advanced pancreatic cancer. 2012 Gastrointestinal Cancers Symposium. January 19-21, 2012 San Francisco.
 73. 上野 誠、小林智、大川伸一、亀田亮、宮川薫：膵癌化学療法におけるNLR, CRPの意義. 第97回日本消化器病学会総会、2011/5/15、京王プラザホテル、東京
 74. M., S. Ohkawa, K Sugimori, S Kobayashi, T Kaneko, M Taguri, S Morita: Randomized phase II study of gemcitabine monotherapy versus gemcitabine with an EPA-enriched oral supplement in advanced pancreatic cancer (YCOG001). 46th ASCO, 2011/6/8, McCormick Place, Chicago
 75. 小林智、上野誠、大川伸一、亀田亮：膵癌診断・治療における OncoPDT-Pabcの有用性. 第42回日本膵臓学会、2011/7/29、ホテルニューキャッスル、弘前
 76. 安藤知子、亀田亮、上野誠、大川伸一、小林智：当院における悪性胃十二指腸狭窄に対する経内視鏡的十二指腸ステントの使用成績. 第81回日本消化器内視鏡学会、2011/8/17、名古屋国際会議場、名古屋
 77. 手塚瞬、杉森一哉、亀田英里、三輪治生、國司洋佑、高蓮浩、金子卓、沼田和司、田中克明、前田慎. EUSが診断に有用であった悪性線維性組織球腫の多発性膵転移の1例. JDDW 2011. 2011年10月. 於：福岡市
 78. 杉森一哉、金子卓、手塚瞬、亀田英里、三輪治生、國司洋佑、高蓮浩、沼田和司、田中克明、前田慎. 膵腫瘍性病変における造影EUSの検討. JDDW 2011. 2011年10月. 於：福岡市
 79. 奥脇興介、木田光広、山内浩史、山本創、佐東丈仁、宮澤志朗、岩井知久、竹澤三代子、菊地秀彦、今泉弘、小泉和三郎：膵内分泌腫瘍の診断におけるEUS-FNAの有用性に関する検討、第92回内視鏡学会関東地方会、2011/6、東京.
 80. 山内浩史、木田光広、奥脇興介、山本創、岩井知久、宮澤志朗、菊池秀彦、池田弘子、竹澤三代子、今泉弘、小林清典、小泉和三郎：当院における胃術後患者に対するERCPの検討、第92回内視鏡学会関東地方会、2011/6、東京.
 81. 今泉弘、木田光広、奥脇興介、山内浩史、宮澤志朗、岩井知久、竹澤三代子、菊池秀彦、小泉和三郎：非切除中下部悪性胆道狭窄に対する self-expandable metal stentsによる内視鏡的胆道ドレナージの検討 初回留置ステントと再留置ステントとの比較、第47回日本胆道学会学術集会、2011/9、宮崎.
 82. 宮澤志朗、木田光広、徳永周子、松本雄太、奥脇興介、岩井知久、安藤豪、池田弘子、菊池秀彦、竹澤三代子、荒木正雄、渡辺摩也、今泉弘、小泉和三郎：肝門部悪性胆道狭窄に対する Metallic stentによる内視鏡的両葉ドレナージ術の成績と適応、第47回日本胆道学会学術集会、2011/9、宮崎.
 83. 奥脇興介、木田光広、山内浩史、宮澤志朗、岩井知久、竹澤三代子、菊池秀彦、今泉弘、小泉和三郎：当院で経験した胆嚢原発神経内分泌腫瘍の2例、第47回日本胆道学会学術集会、2011/9、宮崎.
 84. 山内浩史、木田光広、山本創、奥脇興介、宮澤志朗、岩井知久、竹澤三代子、菊池秀彦、横山薫、久保田美和、今泉弘、小林清典、小泉和三郎：当院における胃術後患者に対するERCPの検討、第47回日本胆道学会学術集会、2011/9、宮崎.
 85. 宮澤志朗、木田光広、奥脇興介、岩井知久、池田弘子、菊池秀彦、竹澤三代子、荒木正雄、渡辺摩也、今泉弘、小泉和三郎：非切除胆道癌に対する Biweekly GEM/S1 併用化学療法の治療成績、JDDW2011, 2011/9、福岡.

86. 荒木正雄, 木田光広, 小泉和三郎: EUS-FNA 関連の手技と工夫 EUS-FNA の穿刺針径による診断能の検討, JDDW2011, 2011/10, 福岡.
87. 奥脇興介, 木田光広, 安藤豪, 山内浩史, 宮澤志朗, 岩井知久, 竹澤三代子, 菊地秀彦, 今泉弘, 小泉和三郎: 当院における膵内分泌腫瘍の検討, JDDW2011, 2011/10, 福岡.
88. 山内浩史, 木田光広, 山本創, 奥脇興介, 宮澤志朗, 岩井知久, 竹澤三代子, 菊地秀彦, 横山薫, 佐田美和, 今泉弘, 小林清典, 小泉和三郎: 当院における胃術後患者に対する ERCP の検討, JDDW2011, 2011/10, 福岡.
89. 木田光広, 胆道疾患の診断と治療, 第23回日本消化器内視鏡学会関東セミナー, 2011/1, 東京.
90. 木田光広, FNA の適応疾患と診断・治療の限界, 第20回日本消化器内視鏡学会北陸支部セミナー, 2011/1, 金沢.
91. Mitsuhiro Kida: Techniques in EUS-FNA and Trucut Biopsy, 1st practical Workshop in Diagnostic and Therapeutic Endoscopic Ultrasound, 2011/4, Hong Kong.
92. Mitsuhiro Kida: Future in EUS Development, 1st practical Workshop in Diagnostic and Therapeutic Endoscopic Ultrasound, 2011/4, Hong Kong.
93. Mitsuhiro Kida: 超音波内視鏡の臨床的有用性, 中国内視鏡学術大会, 2011/9, 重慶
94. Mitsuhiro Kida: The role of EUS & EUS-FNA in the diagnosis of pancreatic cancer, Asian Pacific Digestive Week (APDW), 2011/10, Singapore.
95. Mitsuhiro Kida: Prevention of post ERCP pancreatitis, The Society of Gastrointestinal Intervention (SGI), 2011/10, Seoul.
96. Mitsuhiro Kida: EUS-guided therapy as a novel modality for pancreatic diseases, The Society of Gastrointestinal Intervention (SGI), 2011/10, Seoul.
97. Mitsuhiro Kida: Role of EUS-FNA for Pancreatic Diseases, 14th National Academic EUS Conference 4th Shanghai International Pancreatology Forum, 2011/11, Shanghai.
98. Mitsuhiro Kida: EUS Anatomy of Bilio-pancreatic System(Linear), The Digestive Endoscopy Society of Taiwan. EUS Phantom Workshop, 2012.3, Taiwan.
99. 植田 亮, 細川 歩, 中田直克, 鈴木庸弘, 安藤孝将, 梶浦新也, 藤浪 斗, 西川 潤, 田尻和人, 時光善温, 小川浩平, 峯村正実, 杉山敏郎. 日常診療における切除不能進行膵癌の治療成績. 第49回日本癌治療学会学術集会, 2011年10月27日-29日, 名古屋.
100. 井岡達也. 膵・胆道癌の診断と治療、日本消化器病学会近畿支部第35回教育講演会(大阪) 2011.2.05.(特別講演)
101. 井岡達也、田中幸子. 膵癌高危険群の同定と早期診断のための前向き研究、第28回日本医学会総会(東京)2011.4.09.(シンポ)
102. T. Ioka. Chemoradiotherapy with gemcitabine and S-1 for unresectable locally advanced pancreatic adenocarcinoma、第9回日本臨床腫瘍学会(横浜) 2011.7.21 (一般)
103. 井岡達也、田中幸子、有本伸子、蘆田玲子、高倉玲奈、膵癌高危険群の囲い込みと膵癌早期診断のための前向きコホート、第42回日本膵臓学会大会(青森) 2011.7.29. (一般)
104. 井岡達也、田中幸子、有本伸子、蘆田玲子、高倉玲奈、切除不能または術後再発胆道癌に対するジェムザール+S-1併用療法:S-1先行投与とS-1同時投与の2つの投与方法についてのI/II相試験第47回日本胆道学会(宮崎)2011.9.16 (特別講演)
105. 井岡達也、田中幸子、高倉玲奈、膵臓癌の早期発見のために適正な検診間隔を検討するための無作為割り付けII相試験、JDDW 2011 第19回日本消化器関連学会週間(福岡) 2011.10.21. (シンポ)
106. 井岡達也、切除不能膵癌に対する最適なゲムシタビン+S-1併用療法の検討:GS同時か?S-1先行か?第49回日本癌治療学会学術集会(名古屋) 2011.10.27 (一般)
107. 辻江正徳、宮本敦史、中森正二、安井昌義、大宮英泰、池永雅一、平尾素宏、高見康二、藤谷和正、三嶋秀行、辻仲利政. 当院における単孔式腹腔鏡下胆

- 嚢摘出術の検討. 第 23 回 日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2011 年 6 月 8 日, 東京
108. 宮本敦史、池永雅一、安井昌義、辻江正徳、末田聖倫、山下公太郎、武岡奉均、宮崎道彦、平尾素宏、藤谷和正、三嶋秀行、中森正二、辻仲利政. 消化器外科緊急手術例における手術部位感染に関する検討. 第 47 回 日本腹部救急医学会総会, 2011 年 8 月 11 日, 福岡市
109. 平尾素宏、藤谷和正、高見康二、大宮英泰、山本和義、浅岡忠史、辻江正徳、宮本敦史、安井昌義、池永雅一、三嶋秀行、中森正二、辻仲利政. 食道癌根治切除術後の肺転移にたいする切除の意義. 第 73 回 日本臨床外科学会総会, 2011 年 11 月 17 日, 東京
110. Miyamoto A, Nakamori S, Tsujie M, Asaoka T, Yamamoto K, Yasui M, Ikenaga M, Miyazaki M, Hirao M, Fujitani K, Mishima H, Tsujinaka T. The impact of obesity on pancreaticoduodenectomy. 21st IASGO 2011, November.9, Tokyo.
111. 松本俊彦, 浅木彰則, 梶原猛史, 壺内栄治, 仁科智裕, 堀伸一郎, 灘野成人, 井口東郎. 当院における切除不能膵癌の長期生存要因の検討. 第 96 回日本消化器病学会四国支部例会. 2011 年 11 月 25-26 日, 高知.
112. 松本俊彦, 西出憲史, 梶原猛史, 浅木彰則, 壺内栄治, 仁科智裕, 堀伸一郎, 灘野成人, 谷水正人, 井口東郎. 胆道出血に対し内視鏡的金属ステント留置術にて止血しえた切除不能膵癌の 1 例. 第 49 回日本癌治療学会総会 2011 年 10 月 27-29 日, 名古屋.
113. 井口東郎. 膵疾患診療における画像診断: PET-CT の位置づけ. 第 42 回日本膵臓学会大会 ランチョンセミナー 2011 年 7 月 30 日, 弘前.
114. 杉本理恵、奥村幸彦、植田圭二郎、古川正幸、船越顕博 ラジオ波が著効した化学療法後の膵癌肝転移の 1 例 第 97 回日本消化器病学会九州支部例会第 91 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
115. 奥村幸彦、杉本理恵、植田圭二郎、古川正幸、船越顕博 肝細胞癌に対するソラフェニブ投与開始前後における門脈血流量の評価 第 97 回日本消化器病学会九州支部例会第 91 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
116. 植田圭二郎、古川正幸、奥村幸彦、杉本理恵、船越顕博、在田修二、熊谷瑞穂 悪性胃十二指腸狭窄に対する十二指腸ステント留置の有用性～当院 6 症例における使用成績～ 第 97 回日本消化器病学会九州支部例会第 91 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 ワークショップ
117. 古川正幸、船越顕博 2 型糖尿病に発症する膵癌の臨床的特徴 第 42 回日本膵臓学会大会 ワークショップ
118. 藤山 隆、久野晃聖、奥村幸彦、杉本理恵、古川正幸 IPMN 合併膵癌に対して膵全摘後、7 年後に肺転移にて再発を認めた一例 第 98 回日本消化器病学会九州支部例会・第 92 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
119. 奥村幸彦、杉本理恵、志多由孝、平田文、篠崎賢治、藤山 隆、久野晃聖、古川正幸 肝細胞癌に対する自己凝血塊を用いた肝動脈化学塞栓療法の安全性と治療効果の検討 第 98 回日本消化器病学会九州支部例会・第 92 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 ワークショップ
120. 久野晃聖、藤山 隆、杉本理恵、奥村幸彦、古川正幸 Gemcitabine および S-1 への不応膵がん症例における追加化学療法の有効性についての検討 第 98 回日本消化器病学会九州支部例会・第 92 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 ワークショップ
121. 杉本理恵、奥村幸彦、久野晃聖、藤山隆、古川正幸 胆道閉塞に合併した肝膿瘍の予後改善を目指した抗生剤肝動注療法を試み 第 98 回日本消化器病学会九州支部例会・第 92 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 ワークショップ
122. Ito T, Okusaka T, Ikeda M, Tajima T, Kasuga A, Fujita Y, Furuse J. Everolimus versus placebo in Japanese patients with advanced pancreatic neuroendocrine tumors (pNET) (Japanese subgroup)

- analysis of RADIANT-3). 2011 Gastrointestinal Cancers Symposium Science and Multidisciplinary Management of GI Malignancies. Jan.20-22,2011, San Francisco, U.S.A.
123. 藤森 尚、麻生 暁、久保宏明、大野隆真、板場壮一、五十嵐久人、小田義直、田中雅夫、中村和彦、高柳涼一、伊藤鉄英. 神経内分泌腫瘍(NET)診断における超音波内視鏡(EUS)の位置付け. 第6回 Net Work Japan 2011.1.22 東京
124. Fujimori N, Aso A, Oono T, Kubo H, Itaba S, Igarashi H, Nakamura K, Takayanagi R, Ito T. Usefulness of Endoscopic Ultrasonography in the Diagnosis of Pancreatic Neuroendocrine Tumors. 2011 DIGESTIVE DISEASE WEEK. May.7-10,2011, Chicago, USA.
125. 肱岡真之、岩尾梨沙、李 倫学、内田匡彦、新名雄介、藤森 尚、中村太一、大野隆真、五十嵐久人、伊藤鉄英、高柳涼一. 局所進行膵癌に対して S-1 併用放射線療法を施行した 4 症例の検討. 第 41 回 九州膵研究会 2011.6.23 久留米
126. 新名雄介、五十嵐久人、李 倫学、藤森 尚、大野隆真、肱岡真之、下川雄三、内田匡彦、中村太一、木村寿成、高柳涼一、伊藤鉄英. 切除不能膵癌による悪性十二指腸狭窄に対する金属ステント留置の有用性. JDDW2011 第 19 回日本消化器病関連学会週間. (第 82 日本消化器内視鏡学会総会)、福岡、10.20-23, 2011
127. Ito T. Current status of gastroenteropancreatic neuroendocrine tumors in Japan. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists. Nov.9-12,2011, Tokyo, Japan
128. 岩尾梨沙、五十嵐久人、李 倫学、内田匡彦、肱岡真之、新名雄介、藤森 尚、中村太一、大野隆真、高柳涼一、伊藤鉄英. 留置した胆管メタリックステントが原因で持続性胆道出血を来し、メタリックステント. 追加留置により止血し得た膵頭体部癌の 1 例. 第 98 回 日本消化器病学会九州支部例会 2011.11.18・19 長崎.
129. 伊藤芳紀. シンポジウム「放射線治療：その治療成績と課題」膵がん. 第 49 回日本癌治療学会学術集会. 2011 年 10 月 29 日 名古屋.
130. 中村聡明. Renal function after preoperative chemoradiation for t3-pancreatic cancer. Estro Anniversary Congress, 2011 年 5 月 8 日, London (UK)
131. 中村聡明. 膵癌の化学放射線療法. 第 9 回日本臨床腫瘍学会, 2011 年 7 月 22 日, 横浜市
132. 中村聡明. 膵癌術前化学放射線治療 60Gy 後の消化管障害. 第 24 回日本放射線腫瘍学会 2011 年 11 月 19 日, 神戸
133. 和田慶太、佐野圭二、他. 通常型膵癌における Planned Multidisciplinary Treatment (PMT) による治療成績と問題点. 第 112 日本外科学会学術集会, 2011 年 5 月 31 日, 東京 (誌上発表)
134. 天野穂高、三浦文彦、豊田真之、和田慶太、渋谷誠、門脇 晋、前野佐和子、高田忠敬、佐野圭二. 局所進行膵癌に対する動脈切除再建を伴った膵切除術の安全性と有効性についての検討 第 112 回日本外科学会学術集会 2011 年 5 月 31 日, 東京 (誌上発表)
135. 和田慶太、佐野圭二、他 通常型膵癌に対する“Surgery - first treatment”の限界と今後の治療戦略 第 23 日本肝胆膵外科学会・学術集会 2011 年 6 月 8~10 日, 東京
136. 三浦文彦、天野穂高、豊田真之、和田慶太、門脇 晋、渋谷誠、前野佐和子、佐野圭二、他 脾動静脈非温存 SPDP 施行例の長期成績. 第 66 回日本消化器外科学会総会, 2011 年 7 月 13~15 日, 名古屋
137. 小川真実、川口義明、伊藤裕幸、古川大輔、郡司 久、矢澤直樹、加藤賢一郎、中郡聡夫、平林健一、峯徹哉. 膵内分泌腫瘍の主膵管造影像と悪性度の関連性についての検討. 第 42 回日本膵臓学会大会. 青森. 2011
138. 伊藤裕幸、川口義明、荒瀬吉孝、山本剛、小川 真実、峯徹哉、古川大輔、郡司久、矢澤直樹、加藤賢一郎、中郡聡夫、平林健一 .IPMN に 合 併 し た Solid

pseudopapillaryneoplasem(SPN)の一例.
第42回日本膵臓学会大会.青森.2011

139. 川島洋平,川口義明,小川真実,伊藤裕幸,山本剛,荒瀬吉孝,古川大輔,郡司久,矢澤直樹,加藤賢一郎,中郡聡夫,平林健一,峯徹哉.通常型膵管癌との鑑別に苦慮した膵内分泌腫瘍の一例.第42回日本膵臓学会大会.青森.2011
140. 仁品玲子,広瀬俊治,荒瀬吉孝,加川建弘,白石光一,峯徹哉,国枝悦夫.門脈腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対し放射線治療が有効であった一例.第316回日本消化器病学会関東支部例会.東京.2011
141. 内田哲史,川口義明,伊藤裕幸,小川真実,古川大輔,郡司久,矢澤直樹,加藤賢一郎,中郡聡夫,峯徹哉.胆嚢癌に併発した胆嚢胃瘻の一例.第47回日本胆道学会学術集会.東京.2011
142. 仁品玲子,広瀬俊治,荒瀬吉孝,加川建弘,白石光一,峯徹哉,国枝悦夫.門脈腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対し放射線治療が有効であった一例.第316回日本消化器病学会関東支部例会.東京.2011
143. 峯 徹哉.膵嚢胞性腫瘍のアプローチ.徳島県胃腸胆道疾患研究会.徳島県.2011
144. 金山和成,小川真実,内田哲史,伊藤裕幸,川口義明,峯徹哉.膵嚢胞病変の長期経過観察中に出現した印環細胞を有する膵臓低分子化癌の一例.第315回日本消化器病学会関東支部例会.東京.2011
145. 小川真実,川口義明,荒瀬吉孝,中島貴之,山本剛,峯徹哉.IPMNの経過観察期間に関する検討.第97回日本消化器病学会総会.東京.2011.
146. 清水京子、高山敬子、白鳥敬子. 家族歴、既往歴を中心とした膵癌の危険因子の検討. 第53回日本消化器病学会大会 2011年10月20日～22日、福岡 .

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。

3. その他

特記すべきことなし。

II. 分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書

切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究

研究分担者 古瀬 純司 杏林大学医学部 内科学腫瘍科 教授

研究要旨：本研究は、切除不能局所進行膵癌の予後の改善を目指し、化学療法と化学放射線療法を用いたランダム化比較試験を行うことにより、最も効果的な標準治療を確立することを目的とする。第一段階として、より有望な化学放射線療法を選択するため、化学療法後 S-1 化学放射線療法を行う治療と初めから S-1 化学放射線療法を行う治療とのランダム化第Ⅱ相試験を実施する。本ランダム化第Ⅱ相試験（JCOG1106 試験）は、平成 23 年度 6 月にプロトコルが完成、同年 10 月、JCOG プロトコル審査委員会の承認が得られた。杏林大学医学部では 11 月 28 日倫理委員会の承認が得られ、試験を開始した。平成 24 年 2 月の時点で 2 例登録、治療を開始した。

A. 研究目的

現在、切除不能局所進行膵癌の標準治療は化学療法あるいは化学放射線療法とされ、未だ確立していない。本研究では、まず、初めから S-1 化学放射線療法を行う治療と導入 GEM 化学療法後に S-1 化学放射線療法を行う治療とのランダム化第Ⅱ相試験を実施し、より有望な化学放射線療法を選択する。続いて、選択した化学放射線療法を現在の標準治療である GEM 化学療法とランダム化比較する第Ⅲ相試験を実施し、局所進行膵癌に対する新しい標準治療を確立する。

B. 研究方法

本研究は JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）肝胆膵グループで実施し、次の 2 段階で臨床試験を進める。

- 1) S-1 併用化学放射線療法と導入 GEM 化学療法後 S-1 併用化学放射線療

法とのランダム化第Ⅱ相試験（JCOG1106 試験）により、より有望な化学放射線療法を選択する。

- 2) GEM 化学療法の標準的治療と 1) のランダム化第Ⅱ相試験で選択した治療法との第Ⅲ相試験を行う。

本年度は 1) S-1 併用化学放射線療法と導入 GEM 化学療法後 S-1 併用化学放射線療法とのランダム化第Ⅱ相試験（JCOG1106 試験）の立案と試験の開始を目指して研究を進めた。

（倫理面への配慮）

本参加患者の安全性確保については、適格条件やプロトコル治療の中止変更規準を厳しく設け、試験参加による不利益を最小化する。また、「臨床研究に関する倫理指針」およびヘルシンキ宣言などの国際的

倫理原則に従い以下を遵守する。

- 1) 研究実施計画書に対する倫理審査委員会の承認が得られた後、試験を開始する。
- 2) すべての患者について登録前に十分な説明と理解に基づく自発的同意を本人より文書で得る。
- 3) データの取り扱い上、患者氏名等直接個人が識別できる情報を用いず、かつデータベースのセキュリティを確保し、個人情報(プライバシー)保護を厳守する。
- 4) 研究の第三者的監視: JCOG のプロトコル審査委員会、効果・安全性評価委員会、監査委員会、放射線治療委員会などによる第三者的監視を受けることを通じて、科学性と倫理性の確保に努める。

C. 研究結果

JCOG1106 試験の概要は次の通りである。

1) 試験デザイン

主要評価項目は全生存期間。JCOG データセンターによる中央登録方式により行う。

2) 対象症例

病理学的に腺癌が確認され、画像診断により遠隔転移がなく、腹腔動脈幹もしくは上腸間膜動脈への浸潤のために切除不能と診断される局所進行膵癌症例を対象とする。

3) 治療法

A 群: S-1 放射線療法

放射線療法は 1 回 1.8Gy、28 回照射、計

50.4Gy を照射する。S-1 は 80mg/m² を照射日のみ朝夕に分けて内服する。

B 群: 導入 GEM+S-1 放射線療法

GEM は 1 回 1000mg/m²/day、30 分点滴静注、週 1 回、3 週投与 1 週休薬を 1 サイクルとして、3 サイクル実施する。その後 28 日以内に、A 群と同様の化学放射線療法を開始する。

A, B 群共通: S-1 併用化学放射線療法終了後、維持療法として標準治療である GEM 化学療法を増悪もしくは忍容できない毒性出現まで行う。

4) 統計学的考察

予定症例数 100 例、登録期間 2 年、追跡期間 1 年。

5) 試験の進捗

当科では 2012 年 1 月、2 例登録し、1 例 B 群、1 例 A 群で治療を開始している。A 群の一例は治療開始直前に閉塞性黄疸を発症し、減黄のため、治療開始が 2 週間遅れたものの、その後順調に経過している。

D. 考察

切除不能膵癌のうち、一般に遠隔転移例および局所進行例の生存期間 (OS) 中央値はそれぞれ 6 ヶ月、10-12 ヶ月程度とされ、満足できるものではない。これまで局所進行膵癌に対する GEM 化学療法と化学放射線療法との比較試験は国外で 2 本実施され、相反する結果であったことから、その優劣について一定のコンセンサスは得られていない。GEM 化学療法の第 II 相試験 (JCOG0506) では、OS 中央値 15 ヶ月と

良好な成績が得られたことから、現状では GEM 化学療法が標準治療として認識されている。S-1 併用放射線療法の第 II 相試験では OS 中央値 16.2 ヶ月と良好な治療成績が得られている。これらの GEM 化学療法と S-1 併用放射線療法を組み合わせた最適な治療法の開発が有望と考えられる。

現在、国際的にも局所進行膵癌の治療は一定のコンセンサスが得られておらず、本研究の成果は世界の膵癌治療の確立につながるものと期待される。

E. 結論

S-1 化学放射線療法と導入 GEM 化学療法の有無によるランダム化比較試験を開始した。現在、2 例を登録し、治療中である。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Ueno H, Okusaka T, Furuse J, Yamao K, Funakoshi A, Boku N, Ohkawa S, Yokosuka O, Tanaka K, Moriyasu F, Nakamori S, Sato T. Multicenter phase II study of gemcitabine and S-1 combination therapy (GS Therapy) in patients with metastatic pancreatic cancer. *Jpn J Clin Oncol* 2011;41(8):953-8.
2. Kindler HL, Ioka T, Richel DJ, Bennouna J, Létourneau R, Okusaka T, Funakoshi A, Furuse J, Park YS, Ohkawa S, Springett GM, Wasan HS, Trask PC, Bycott P, Ricart AD, Kim S, Van Cutsem E. Axitinib plus gemcitabine versus placebo plus gemcitabine in patients with advanced pancreatic adenocarcinoma: a double-blind randomised phase 3 study. *Lancet Oncol* 2011;12(3):256-62.
3. Okusaka T, Furuse J, Funakoshi A, Ioka T, Yamao K, Ohkawa S, Boku N, Komatsu Y,

Nakamori S, Iguchi H, Ito T, Nakagawa K, Nakachi K. Phase II study of erlotinib plus gemcitabine in Japanese patients with unresectable pancreatic cancer. *Cancer Sci* 2011;102(2):425-31.

4. Morizane C, Okusaka T, Ueno H, Kondo S, Ikeda M, Furuse J, Shinichi O, Nakachi K, Mitsunaga S, Kojima Y, Suzuki E, Ueno M, Yamaguchi T. Phase I/II study of gemcitabine as a fixed dose rate infusion and S-1 combination therapy (FGS) in gemcitabine-refractory pancreatic cancer patients. *Cancer Chemother Pharmacol*. 2011 Nov 26. [Epub ahead of print]
5. 古瀬純司, 北村浩, 廣川智, 長島文夫. がん化学療法の進歩. 臓器別がん治療. 膵がん・胆道がん. 化学療法の領域 27(S-1):152-159, 2011.

2. 学会発表

1. Ioka T, Ikeda M, Ohkawa S, Yanagimoto H, Fukutomi A, Sugimori K, Baba H, Yamao K, Shimamura T, Chen J, Mizumoto K, Furuse J, Funakoshi A, Hatori T, Yamaguchi T, Egawa S, Sato S, Ohashi Y, Cheng A, Okusaka T. Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 (GS) versus S-1 versus gemcitabine (GEM) in unresectable advanced pancreatic cancer (PC) in Japan and Taiwan: GEST study. American Society of Clinical Oncology 47th Annual Meeting, Chicago, 2011.6.7.
2. 古瀬純司. 膵癌化学療法の最新情報—S-1 のエビデンスとプラクティス. 第 97 回日本消化器病学会九州支部例会, 第 91 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会, 久留米市, 2011 年 6 月 25 日
3. Furuse J. Role of adjuvant and neoadjuvant therapy. ISDS Main Session. Pancreatic neoplasms: up-date 2011. International Surgical Week, Yokohama, 2011.8.31

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。

3. その他

特記すべきことなし。

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書

切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究

研究分担者 石井 浩 がん研究会有明病院 消化器内科 副部長

研究要旨：本研究は、切除不能局所進行膵癌の予後の改善を目指し、化学療法と化学放射線療法を用いたランダム化比較試験を行うことにより、最も効果的な標準治療を確立することを目的とする。第一段階として、より有望な化学放射線療法を選択するため、化学療法後 S-1 化学放射線療法を行う治療と初めから S-1 化学放射線療法を行う治療とのランダム化第Ⅱ相試験を実施する。本ランダム化第Ⅱ相試験（JCOG1106 試験）は、平成 23 年度 6 月にプロトコールが完成、同年 10 月、JCOG プロトコール審査委員会の承認が得られた。がん研究会有明病院では 12 月倫理委員会の承認が得られ、試験を開始した。平成 24 年 2 月の時点で 1 例登録、治療を開始した。

A. 研究目的

わが国の膵癌診療ガイドラインでも切除不能局所進行膵癌に対する治療として、化学療法あるいは化学放射線療法が同レベルで推奨されており、十分確立しているとはいえない。本研究では、最終的にゲムシタビンを用いた化学療法と化学放射線療法の比較試験を行い、標準治療の確立を目的とする。第一段階として、GEM を用いた導入化学療法および S-1 化学放射線療法を用いたランダム化第Ⅱ相試験を行い、より有望な化学放射線療法を選択する。

B. 研究方法

本研究は S-1 併用化学放射線療法と導入 GEM 化学療法後 S-1 併用化学放射線療法とのランダム化第Ⅱ相試験（JCOG1106 試験）を JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）肝胆

膵グループにおいて実施する。本分担研究者は JCOG 肝胆膵グループ事務局として、グループ全体の試験遂行をサポートする。

（倫理面への配慮）

本参加患者の安全性確保については、適格条件やプロトコール治療の中止変更規準を厳しく設け、試験参加による不利益を最小化する。また、「臨床研究に関する倫理指針」およびヘルシンキ宣言などの国際的倫理原則に従い以下を遵守する。

- 1) 研究実施計画書に対する倫理審査委員会の承認が得られた後、試験を開始する。
- 2) すべての患者について登録前に十分な説明と理解に基づく自発的同意を本人より文書で得る。

- 3) データの取り扱い上、患者氏名等直接個人が識別できる情報を用いず、かつデータベースのセキュリティを確保し、個人情報(プライバシー)保護を厳守する。
- 4) 研究の第三者的監視: JCOG のプロトコル審査委員会、効果・安全性評価委員会、監査委員会、放射線治療委員会などによる第三者的監視を受けることを通じて、科学性と倫理性の確保に努める。

C. 研究結果

JCOG1106 試験の概要は次の通りである。

1) 試験デザイン

主要評価項目は全生存期間。JCOG データセンターによる中央登録方式により行う。

2) 対象症例

膵腫瘍からの組織生検あるいは細胞診により腺癌が確認され、画像診断により遠隔転移がなく、腹腔動脈幹もしくは上腸間膜動脈への浸潤のために切除不能と診断される局所進行膵癌症例を対象とする。

3) 治療法

A 群: S-1 放射線療法

放射線療法は 1 回 1.8Gy、28 回照射、計 50.4Gy を照射する。S-1 は 80mg/m² を照射日のみ朝夕に分けて内服する。

B 群: 導入 GEM+S-1 放射線療法

GEM は 1 回 1000mg/m²/day、30 分点滴静注、週 1 回、3 週投与 1 週休薬を 1 サイクルとして、3 サイクル実施する。その後 28 日以

内に、A 群と同様の化学放射線療法を開始する。

A, B 群共通: S-1 併用化学放射線療法終了後、維持療法として標準治療である GEM 化学療法を増悪もしくは忍容できない毒性出現まで行う。

4) 統計学的考察

予定症例数 100 例、登録期間 2 年、追跡期間 1 年。

5) 試験の進捗

当科では 2012 年 1 月、1 例登録し、治療を開始している。A 群の一例は治療開始直前に閉塞性黄疸を発症し、減黄のため、治療開始が 2 週間遅れたものの、その後順調に経過している。

D. 考察

切除不能膵癌のうち、一般に遠隔転移例および局所進行例の生存期間(OS)中央値はそれぞれ 6 ヶ月、10-12 ヶ月程度とされ、満足できるものではない。我々が先行研究として実施した GEM 化学療法の第 II 相試験(JCOG0506)では、OS 中央値 15 ヶ月と良好な成績が得られたことから、現状では GEM 化学療法が標準治療として認識されている。また S-1 併用放射線療法の第 II 相試験では OS 中央値 16.2 ヶ月とさらに良好な治療成績が得られている。これらを組み合わせた治療法が有望と考え、今回のランダム化第 II 相試験を計画した。

現在、国際的にも局所進行膵癌の治療は一定のコンセンサスが得られておらず、本研究の成果は世界の膵癌治療の確立につ

ながるものと期待される。

E. 結論

S-1 化学放射線療法と導入 GEM 化学療法の有無によるランダム化比較試験を開始した。現在、1 例を登録し、治療中である。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Ozaka M, Matsumura Y, Ishii H, Omuro Y, Itoi T, Mouri H, Hanada K, Kimura Y, Maetani I, Okabe Y, Tani M, Ikeda T, Hijioka S, Watanabe R, Ohoka S, Hirose Y, Suyama M, Egawa N, Sofuni A, Ikari T, Nakajima T. Randomized phase II study of gemcitabine and S-1 combination versus gemcitabine alone in the treatment of unresectable advanced pancreatic cancer (Japan Clinical Cancer Research Organization PC-01 study). *Cancer Chemother Pharmacol.* 2012 Jan 17. [Epub ahead of print]
2. Yukisawa S, Ishii H, Matsuyama M, Kuraoka K, Takano K, Kamei A, Ozaka M. Outcomes and tolerability of systemic chemotherapy for pancreatic or biliary cancer patients aged 75 years or older. *Jpn J Clin Oncol.* 2011 Jan;41(1):76-80.
3. 石井浩. 膵癌の術後補助療法. コンセンサス癌治療 2011. 小川道雄、他編集. へるす出版. 東京. 2011, 143-146.

2. 学会発表

1. 膵腫瘍に対する細径針による細胞組織診：経皮・経内視鏡アプローチの比較. 松山真人, 倉岡賢輔, 行澤斉悟, 春日章良, 尾阪将人, 石井浩. 一般口演. 示説. 日本臨床腫瘍学会学術集会 2011 年 7 月 21 日-23 日. 横浜市
2. A randomized phase II study of gemcitabine plus S-1 versus gemcitabine alone in patients with unresectable pancreatic cancer. Y.Matsumura, T.Ikari, H.Ishii, M.Suyama, T.Itoi, Y.Omuro, S.Yano, K.Hanada, Y.Kimura, T.Ukita,

Y.Okabe, M.Tani, T.Nakajima. 一般口演. 日本臨床腫瘍学会学術集会.2011 年 7 月 21 日-23 日.横浜市

3. Y. Omuro, T. Ikari, H. Ishii, M. Ozaka, M. Suyama, Y. Matsumura, T. Itoi, N. Egawa, S. Yano, K. Hanada, Y. Kimura, T. Ukita, Y. Ishida, M. Tani, S. Ohoka, Y. Hirose, S. Hijioka, R. Watanabe, T. Ikeda, T. Nakajima, Japan Clinical Cancer Research Organization. A randomized phase II study of gemcitabine plus s-1 versus gemcitabine alone in patients with unresectable pancreatic cancer. ASCO Annual Meeting, 2011, Chicago

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし。

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書

切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究

研究分担者 奥坂 拓志 国立がん研究センター中央病院 肝胆膵腫瘍科 副科長

研究要旨：本研究は、切除不能局所進行膵癌の予後の改善を目指し、化学療法と化学放射線療法を用いたランダム化比較試験を行うことにより、最も効果的な標準治療を確立することを目的とする。第一段階として、より有望な化学放射線療法を選択するため、化学療法後 S-1 化学放射線療法を行う治療と初めから S-1 化学放射線療法を行う治療とのランダム化第Ⅱ相試験を実施する。本ランダム化第Ⅱ相試験（JCOG1106 試験）は、平成 23 年度 6 月にプロトコールが完成、同年 10 月、JCOG プロトコール審査委員会の承認が得られた。国立がん研究センターでは平成 24 年 1 月、倫理委員会の承認が得られ、試験を開始した。

A. 研究目的

切除不能局所進行膵癌の標準治療は化学療法あるいは化学放射線療法とされ、未だ確立していない。本研究では、初めから S-1 化学放射線療法を行う治療と導入 GEM 化学療法後に S-1 化学放射線療法を行う治療とのランダム化第Ⅱ相試験を実施し、より有望な化学放射線療法を選択する。続いて、選択した化学放射線療法を現在の標準治療である GEM 化学療法とランダム化比較する第Ⅲ相試験を実施し、局所進行膵癌に対する新しい標準治療を確立する。

B. 研究方法

本研究は JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）肝胆膵グループで実施する。まず、S-1 併用化学放射線療法と導入 GEM 化学療法後

S-1 併用化学放射線療法とのランダム化第Ⅱ相試験（JCOG1106 試験）の立案と試験の開始を目指して準備を進めた。

（倫理面への配慮）

本参加患者の安全性確保については、適格条件やプロトコール治療の中止変更規準を厳しく設け、試験参加による不利益を最小化する。また、「臨床研究に関する倫理指針」およびヘルシンキ宣言などの国際的倫理原則に従い以下を遵守する。

- 1) 研究実施計画書に対する倫理審査委員会の承認が得られた後、試験を開始する。
- 2) すべての患者について登録前に十分な説明と理解に基づく自発的同意

意を本人より文書で得る。

- 3) データの取り扱い上、患者氏名等直接個人が識別できる情報を用いず、かつデータベースのセキュリティを確保し、個人情報(プライバシー)保護を厳守する。
- 4) 研究の第三者的監視: JCOGのプロトコール審査委員会、効果・安全性評価委員会、監査委員会、放射線治療委員会などによる第三者的監視を受けることを通じて、科学性と倫理性の確保に努める。

C. 研究結果

JCOG1106 試験の概要は次の通りである。

1) 試験デザイン

主要評価項目は全生存期間。JCOG データセンターによる中央登録方式により行う。

2) 対象症例

病理学的に腺癌が確認され、画像診断により遠隔転移がなく、腹腔動脈幹もしくは上腸間膜動脈への浸潤のために切除不能と診断される局所進行膵癌症例を対象とする。

3) 治療法

A 群: S-1 放射線療法

放射線療法は 1 回 1.8Gy、28 回照射、計 50.4Gy を照射する。S-1 は 80mg/m² を照射日のみ朝夕に分けて内服する。

B 群: 導入 GEM+S-1 放射線療法

GEM は 1 回 1000mg/m²/day、30 分点滴静注、週 1 回、3 週投与 1 週休薬を 1 サイクルとして、3 サイクル実施する。その後 28 日以

内に、A 群と同様の化学放射線療法を開始する。

A, B 群共通: S-1 併用化学放射線療法終了後、維持療法として標準治療である GEM 化学療法を増悪もしくは忍容できない毒性出現まで行う。

4) 統計学的考察

予定症例数 100 例、登録期間 2 年、追跡期間 1 年。

5) 試験の進捗

2012 年 1 月倫理委員会での承認が得られ、今後登録を進めていく予定である。

D. 考察

これまで局所進行膵癌に対する GEM 化学療法と化学放射線療法との比較試験は国外で 2 本実施され、相反する結果であったことから、その優劣について一定のコンセンサスは得られていない。GEM 化学療法の第 II 相試験 (JCOG0506) では、OS 中央値 15 ヶ月と良好な成績が得られたことから、現状では GEM 化学療法が標準治療として認識されている。また S-1 は最近の第 III 相試験により、GEM と同等の有用性が得られている。さらに放射線との併用の第 II 相試験では OS 中央値 16.2 ヶ月と良好な治療成績が得られている。

一方、局所進行膵癌では、治療開始後早期に遠隔転移などの増悪を認め、結果的に化学放射線療法を実施すべきでないと思われる症例が一定頻度で見られる。したがって、GEM 化学療法を先行させた後、増悪がない患者に絞って化学放射線療法を行

う治療法がリスク/ベネフィットバランスから有望と考えられる。現在、国際的にも局所進行膵癌の治療は一定のコンセンサスが得られておらず、本研究の成果は世界の膵癌治療の確立につながるものと期待される。

E. 結論

S-1 化学放射線療法と導入 GEM 化学療法の有無による比較試験を開始した。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Okusaka T, Furuse J, Funakoshi A, Ioka T, Yamao K, Ohkawa S, Boku N, Komatsu Y, Nakamori S, Iguchi H, Ito T, Nakagawa K, Nakachi K. Phase II study of erlotinib plus gemcitabine in Japanese patients with unresectable pancreatic cancer. *Cancer Sci*, 2011,102(2):425-431
2. Okusaka T, Ueno H, Ikeda M, Morizane C. A phase I and pharmacokinetic clinical trial of oral administration of the acyclic retinoid NIK-333. *Hepatology Research*, 2011,41(6):542-552.
3. Ueno H, Okusaka T, Furuse J, Yamao K, Funakoshi A, Boku N, Ohkawa S, Yokosuka O, Tanaka K, Moriyasu F, Nakamori S, Sato T. Multicenter Phase II Study of Gemcitabine and S-1 Combination Therapy (GS therapy) in Patients with Metastatic Pancreatic Cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 2011,41(8):953-958.
4. Morizane C, Okusaka T, Morita S, Tanaka K, Ueno H, Kondo S, Ikeda M, Nakachi K, Mitsunaga S. Construction and validation of a prognostic index for patients with metastatic pancreatic adenocarcinoma. *Pancreas*, 2011,40(3):415-421.
5. Yao JC, Shah MH, Ito T, Bohas CL, Wolin EM, Cutsem EV, Hobday TJ, Okusaka T, Capdevila J, E de Vries EG, Tomassetti P, Pavel ME, Hoosen S, Haas T, Lincy J, Lebwohl D, Oberg K, for the RAD001 in Advanced Neuroendocrine Tumors, Third Trial (RADIANT-3) Study Group. Everolimus for Advanced Pancreatic Neuroendocrine Tumors. *New Eng J Med*, 2011,364(6): 514-523.
6. Kindler H, Ioka T, Richel D, Bennouna J, Letourneau R, Okusaka T, Funakoshi , Furuse J, Park YS, Ohkawa S, Springett GM, Wasan HS, Trask PC, Bycott P, Ricart AD, Kim S, Custem E. Axitinib plus gemcitabine versus placebo plus gemcitabine in patients with advanced pancreatic adenocarcinoma: a double-blind randomized phase 3 study. *Lancet Oncol*, 2011,12(3):256-262.
7. Matsubara J, Honda K, Ono M, Tanaka Y, Kobayashi M, Jung G, Yanagisawa K, Sakuma T, Nakamori S, Sata N, Nagai H, Ioka T, Okusaka T, Kosuge T, Tsuchida A, Shimahara M, Yasunami Y, Chiba T, Hirohashi S, Yamada T. Reduced plasma level of CXC chemokine ligand 7 in patients with pancreatic cancer. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 2011,20(1):160-171.
8. Kaida M, Morita-Hoshi Y, Soeda A, Wakeda T, Yamaki Y, Ueno H, Kondo S, Morizane C, Ikeda M, Okusaka T, Takaue Y, Heike Y. Phase 1 trial of wilms tumor 1 (WT1) peptide vaccine and gemcitabine combination therapy in patients with advanced pancreatic or biliary tract cancer. *J Immunother*, 2011,34(1):92-99.
9. Murakoshi Y, Honda K, Sasazuki S, Ono M, Negishi A, Matsubara J, Sakuma T, Kuwabara H, Nakamori S, Sata N, Nagai H, Ioka T, Okusaka T, Kosuge T, Shimahara M, Yasunami Y, Ino Y, Tsuchida A, Aoki T, Tsugane S, Yamada T. Plasma biomarker discovery and validation for colorectal cancer by quantitative shotgun mass spectrometry and protein microarray. *Cancer Sci*, 2011,102(3):630-638.
10. Morofuji N, Ojima H, Onaya H, Okusaka T, Shimada K, Sakamoto K, Esaki M, Nara S, Kosuge T, Asahina D, Ushigome M, Hiraoka N, Nagino M, Kondo T. Macrophage-capping protein as a tissue biomarker for prediction of response to gemcitabine treatment and prognosis in cholangiocarcinoma. *J Proteomics*, 2011,in

- press.
11. Egawa S, Toma H, Ohigashi H, Okusaka T, Nakao A, Hatori T, Maguchi H, Yanagisawa A, Tanaka M. Classification of pancreatic cancer: validation using nation-wide registry of Japan pancreas society. Editor Watanabe HS. In: Horizons in Cancer Research. 2011, Vol.46, in press. Nova Science Publishers, Inc. Japan.
 12. 奥坂拓志, 上野秀樹, 森実千種, 近藤俊輔. 膵内分泌腫瘍の治療 薬物療法. VII.膵内分泌腫瘍. 日本臨床,2011,69(増刊 2):617-620.
 13. 奥坂拓志, 森実千種, 池田公史. 消化器神経内分泌腫瘍の薬物治療の動向. 内分泌外科,28(2),2011 印刷中
 14. 奥坂拓志. わが国における国際共同臨床試験(企業治験および研究者主導試験)の現状と問題点 4) 肝胆膵がん. 特集国際共同臨床試験の現状と問題点. 腫瘍内科,2011,7(3):263-268.
 15. 奥坂拓志, 森実千種, 池田公史. 膵神経内分泌腫瘍(pNET)に対する化学療法・分子標的治療. 特集膵神経内分泌腫瘍(pNET)の診断と治療の新しい展開. 胆と膵,2011,32(3):227-233.
 16. 奥坂拓志, 山口幸二. 切除不能膵癌に対する化学療法 最新情報. 胆と膵,2011,32(4):323-331.
 17. 奥坂拓志, 森実千種, 池田公史. 消化器神経内分泌腫瘍の薬物治療の動向. 特集 消化器神経内分泌腫瘍(GEP-NET):基礎から臨床までの最前線. 内分泌外科,2011,28(2):98-107.
 18. 奥坂拓志. 膵神経内分泌腫瘍における新規治療の展望. 特集膵神経内分泌腫瘍 - Update 2011. 肝胆膵,2011,63(2):327-331.
 19. 奥坂拓志. 座談会. 膵癌治療のこれから-これまでの10年を振り返って. 膵・胆道癌 FRONTIER, 2011,1(1):4-13.
 20. 奥坂拓志. IV. 薬物療法の進歩. Liver, Pancreas, Biliary Tract Cancer. 肝・胆・膵癌. 膵神経内分泌腫瘍 2011 Update. 癌と化学療法,2011,38(10):1613-1618.
 21. 奥坂拓志. 膵がん・胆道がんの治療ーゲムシタピンから分子標的治療薬まで. 化学療法アップデート. 日経メディカル Cancer Research,2011,25:39-43.
 22. 上野秀樹, 奥坂拓志. 5.切除不能膵癌の治療. (3)化学療法. 特集膵癌の診断と治療 2011~2013. コンセンサスがん治療,2011,10(3):154-158.
 23. 森実千種, 奥坂拓志. 神経内分泌腫瘍の化学療法. -悪性度別の治療選択. 特集 消化器癌化学療法 2011-最近の話題. 臨床消化器内科,2011,26(6):697-702.
 24. 山口智宏, 上野秀樹, 奥坂拓志. 膵癌③進行・再発(切除不能を含む)治療. 特集 外科医のための最新癌薬物療法 I 章 臓器別薬物療法. 臨床外科,2011,11(増刊号):225-230.
 25. 大塚大河, 上野秀樹, 奥坂拓志. 進行膵癌に対する分子標的治療・ワクチン治療. 臨床消化器内科,2011,26(1):109-116.
 26. 谷山智子, 上野秀樹, 奥坂拓志. 切除不能膵がんに対して、どのような治療があるのでしょうか? 患者・家族の相談に応えるがん診療サポートガイド. 治療,2011,93(4月増刊号):942-944.
 27. 池田公史, 仲地耕平, 光永修一, 上野秀樹, 森実千種, 近藤俊輔, 奥坂拓志. 全身化学療法の進歩. 消化器外科,2011,34(7):1069-1076.
 28. 奥坂拓志. 膵がん. 早期発見・早期治療のためのがん部位別基礎講座. ヘルスアンドライフ 2月号,2012,第3274号.
 29. 上野秀樹, 奥坂拓志. 4.内科治療の進歩. I.膵癌. 特集膵腫瘍:診断と治療の進歩. 日本内科学会雑誌,2012,101(1):29-36.
 30. 坂本康成, 上野秀樹, 奥坂拓志. 膵胆道癌化学療法の最前線. 胆・膵疾患診療の最前線・治療/最新の治療戦略とその成果-病診連携のために-. Medical Practice, 2012,29(1):140-144.
 31. 奥坂拓志. 3. Chemotherapy/インターフェロン治療成績. VII内科治療. 膵・消化管神経内分泌腫瘍(NET)診断・治療実践マニュアル. 今村正之総監修. 田中雅夫, 平田公一編集. 総合医学社. 東京. 2011年 pp153-163

32. 奥坂拓志. 新規治療の展望. IX NET 治療の今後の展望. 膵・消化管神経内分泌腫瘍(NET)診断・治療実践マニュアル. 今村正之総監修. 田中雅夫、平田公一編集. 総合医学社. 東京. 2011年 pp204-209
33. 上野秀樹、奥坂拓志. 膵がんでの臨床試験デザイン. 抗がん剤の開発戦略と承認申請のポイント. 抗がん剤の開発戦略と承認申請のポイント. 技術情報協会. 東京. 2011年2月. P27-35.
2. 学会発表
1. 奥坂拓志. (2-S-8【シンポジウム】急増する難治癌(膵癌)対策). 切除不能膵癌の化学療法. 第28回日本医学会総会 2011 東京 2011年4月8日~10日 於: 東京都
2. 奥坂拓志. ミニシンポジウム 座長膵癌に対する全身化学療法. 第97回日本消化器病学会総会. 2011年5月13日-5月15日 於: 東京都
3. 奥坂拓志. モーニングセミナー(スポンサードセミナー: 中外製薬)膵癌の薬物治療. 第97回日本消化器病学会総会. 2011年5月13日-5月15日 於: 東京都
4. Ioka T, Ikeda M, Ohkawa S, Yanagimoto H, Fukutomi A, Sugimori K, Baba H, Yamao K, Shimamura T, Chen J, Mizumoto K, Furuse J, Funakoshi A, Hatori T, Yamaguchi T, Egawa S, Sato A, Cheng A, Okusaka T. Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 (GS) versus S-1 versus gemcitabine (GEM) in unresectable advanced pancreatic cancer (PC) in Japan and Taiwan: GEST study. (Oral Abstraction Session, Gastrointestinal (Noncolorectal) Cancer), 2011 ASCO Annual Meeting, June 5-8, 2011, Chicago, IL, U.S.A. J Clin Oncol 29(Suppl): Abstract No.4007, 2011.
5. Ueno H, Kaniwa N, Sugiyama E, Furuse J, Ishii H, Satoh Y, Yoshida T, Saijyo N, Saito Y, Okusaka T. Effect of cytidine deaminase (CDA)-related biomarkers on overall survival in patients with advanced pancreatic cancer receiving gemcitabine (GEM) monotherapy. 2011 ASCO Annual Meeting, June 5-8, 2011, Chicago, IL, U.S.A. J Clin Oncol 29(Suppl): Abstract No.e14645, 2011.
6. Kondo S, Ueno H, Morizane C, Koizumi F, Tamura K, Okusaka T. The association of long pentraxin 3 on prognosis in pancreatic carcinoma patients on gemcitabine-based chemotherapy. (General Poster Session, Tumor Biology), 2011 ASCO Annual Meeting, June 5-8, 2011, Chicago, IL, U.S.A. J Clin Oncol 29(Suppl): Abstract No.10536, 2011.
7. 奥坂拓志、池田公史. (ワークショップ 座長)胆膵癌化学療法の現状と問題点. 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
8. 奥坂拓志. 胆道・膵臓癌. 第18回日本臨床腫瘍学会教育セミナーB. 2011年7月23日. 於: 横浜市
9. Ueno H, Kouge T, Sakamoto Y, Saiura A, Ishii H, Okusaka T. (ワークショップ) Adjuvant therapy for resectable pancreatic cancer: to develop more effective treatment. (WS-5-6). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
10. Kondo S, Ueno H, Morizane C, Koizumi F, Tamura K, Okusaka T. (一般口演) Long pentraxin 3 is associated with a poor prognosis in pancreatic carcinoma patients on gemcitabine based chemotherapy. (03-011). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於: 横浜市
11. Taniyama T, Morizane C, Ueno H, Kondo S, Yamaguchi T, Syoji H, Nakachi K, Ikeda M, Mitsunaga S, Kosuge T, Shimada K, Sakamoto Y, Esaki M, Nara S, Okusaka T. (一般口演 肝胆膵がん(2) 膵がん①) The treatment outcome of chemotherapy for recurrent pancreatic cancer after postoperative adjuvant chemotherapy. (03-008). 日本臨床腫瘍

- 学会学術集会. 2011年7月21日-23日.
於：横浜市
12. Shoji H, Morizane C, Taniyama T, Yamaguchi T, Kondo S, Ueno H, Okusaka T. (一般口演) Thirty-four cases of advanced ampullary carcinoma: experience at a single center. (03-020). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於：横浜市
 13. Shiba S, Morizane C, Okusaka T, Ueno H, Ikeda M, Kondo S, Kosuge T, Shimada K, Yamaguchi T, Hiraoka N. (一般口演 肝胆膵がん(3) 膵がん② その他) One hundred cases of pancreatic endocrine tumors: 20 years of experience at a single center. (03-013). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於：横浜市
 14. Ikeda M, Ioka T, Ohkawa S, Yanagimoto H, Mizuno N, Boku N, Furuse J, Hatori T, Funakoshi A, Yamaguchi T, Egawa S, Sato A, Ohashi Y, Tanaka M, Okusaka T. (プレナリーセッション). Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 (GS) versus S-1 versus gemcitabine (GEM) in unresectable pancreatic cancer (PC) in Japan and Taiwan: GEST study. (PL-3) 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於：横浜市
 15. Mitsunaga S, Ikeda M, Oono I, Shimizu S, Ueno H, Morizane C, Kondo S, Okusaka T. (ワークショップ) The degree of circulating CRP level predicts the results of GEM-monootherapy in patients with advanced pancreatic cancer. (WS-5-3). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於：横浜市
 16. Terashima T, Morizane C, Kondo S, Ueno H, Ikeda M, Saito Y, Shimada Y, Kushima R, Hiraoka N, Kanai Y, Okusaka T. (一般口演) Extra-pulmonary neuroendocrine tumors: An institutional experience of 337 patients at the National Cancer Center Hospital in Japan. (02-103). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於：横浜市
 17. Otsuka T, Morizane C, Nara S, Okusaka T, Ueno H, Kondo S, Shimada K, Kosuge T, Hiraoka N. (一般口演) Gemcitabine monotherapy in apteitns with recurrent intraductal papillary mucinous carcinoma of the pancreas.(03-014). 日本臨床腫瘍学会学術集会. 2011年7月21日-23日. 於：横浜市
 18. 奥坂拓志. (座長) 膵がん治療(7). 第42回日本膵臓学会大会. 2011年7月29日-30日. 於：弘前市
 19. 山口智宏、近藤俊輔、森実千種、上野秀樹、奥坂拓志. (一般口演 O-98) パクリタキセル/カルボプラチン併用療法を施行した膵原発粘液性嚢胞腺癌の1例. 第42回日本膵臓学会大会. 2011年7月29日-30日. 於：弘前市
 20. 柴知史、森実千種、奥坂拓志、上野秀樹、池田公史、近藤俊輔、山口智宏、小菅智男、島田和明、平岡伸介. (一般口演 O-51) WHO 新分類を用いた膵内分泌腫瘍100例の検討. 第42回日本膵臓学会大会. 2011年7月29日-30日. 於：弘前市
 21. 奥坂拓志 (座長) 要望演題1 (R-1~6). 第47回日本胆道学会学術集会. 2011年9月16日-17日. 於：宮崎市
 22. Shoji H, Morizane C, Taniyama T, Yamaguchi T, Kondo S, Ueno H, Okusaka T. Tyirty-four cases of advanced ampullary carcinoma receiving non-surgical treatment: experience at a single center. The 2011 European Cancer Organisation, September, 23-27, Stockholm, Sweden.
 23. 奥坂拓志. (パネルディスカッション12 切除不能進行消化器がんに対する治療選択) 切除不能進行消化器がんに対する治療選択. 消PD12-8) 第53回日本消化器関連学会週間(JDDW2011). 2011年10月20日-21日. 於：福岡市
 24. 奥坂拓志. (ランチョンセミナー25: 大鵬) 膵癌に対する化学療法、最近の話題から. 第49回日本癌治療学会学術集会. 2011年10月27日-29日. 於：名